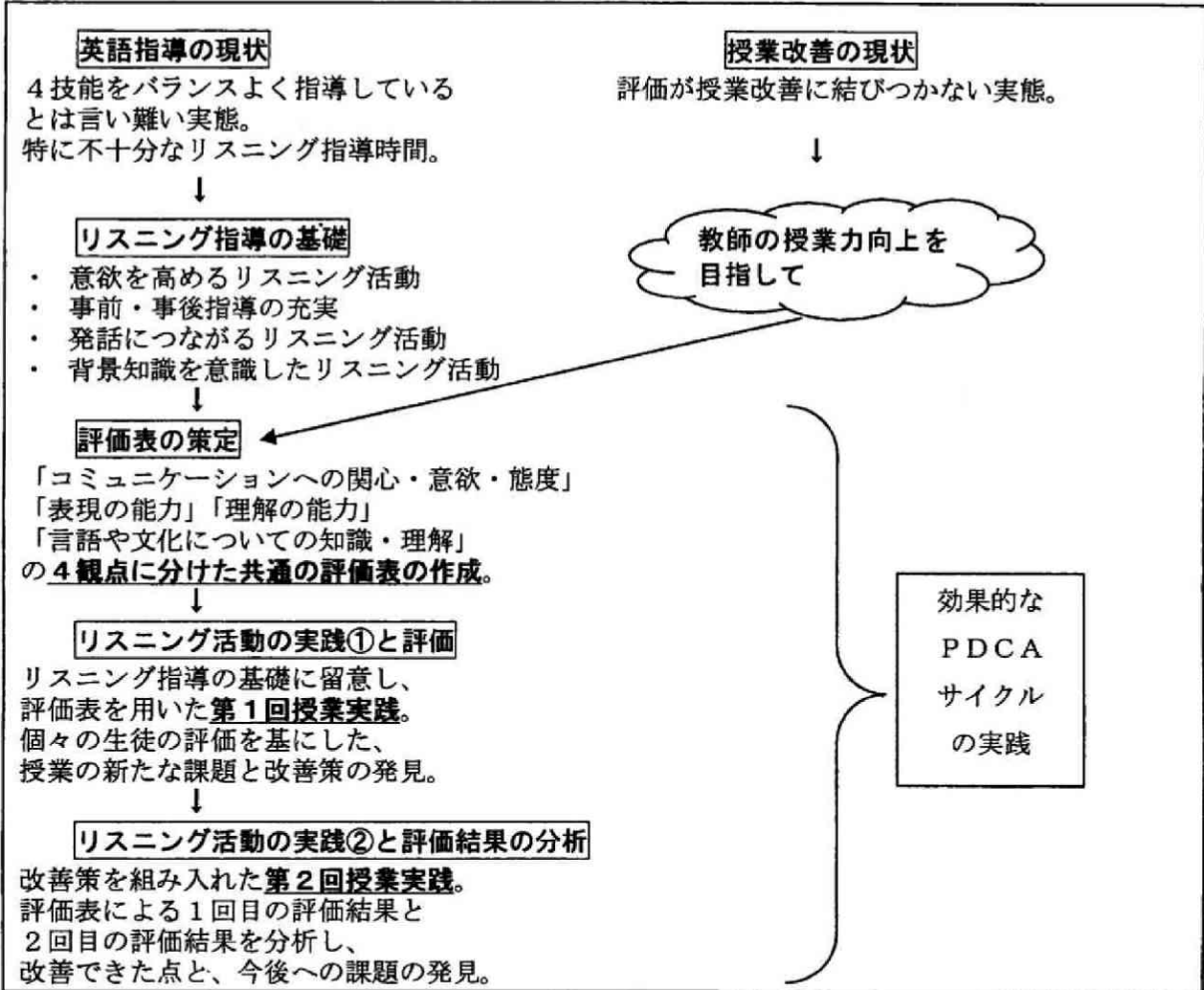


外国語部会

研究主題 「個に応じたリスニング指導における授業改善」

I 研究の概要



このようにして、「聞くこと」の指導の向上に焦点を絞り、4観点別評価表に記載された生徒の評価やコメントを基に「個に応じたリスニング指導における授業改善」を行った。生徒による授業評価結果からPDCAサイクルを用いた授業改善を試みた。以下に具体的な改善事例を示す。

図1 4観点別評価表（太枠内が生徒記入欄）

Room No.	Name	項目	評価	コメント
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		1) 「聞く」活動を意欲的に行いましたか？	1 2 3 4	
		2) 「聞く」活動中にとまどった時、あなたは聞こうという姿勢を継続しましたか？	1 2 3 4	
		3) 聞いた内容についての質問に、積極的に英語で答えようと努力しましたか？	1 2 3 4	
表現の能力		4) 英語の質問に対して、適切に答えることができましたか？	1 2 3 4	
		5) 既習の単語や内容に関する情報を活用することができましたか？	1 2 3 4	
		6) 各時間で先生が使う英語表現を活用できましたか？	1 2 3 4	
理解の能力		7) 「聞く」前に学習した単語やイディオムは英文の内容理解に役立ちましたか？	1 2 3 4	
		8) 英文の内容を十分聞きとれたと思いますか？	1 2 3 4	
言語や文化についての知識・理解		9) 「聞く」活動を通して、日本の文化や海外の文化を意識しましたか？	1 2 3 4	

II 研究の内容

1 ライティング (A高校の実践)

(1) 英語学習への生徒の取組

- ・生徒の7割が大学進学希望である。
- ・「英語が得意」である生徒が多いが、一方で、学習習慣が身に付いていない生徒もいる。

(2) 実施対象と使用教材・教科書

2学年 ライティング 3クラス 76名

使用教材： PRO-VISION ENGLISH WRITING (桐原書店)

(3) リスニング指導との関連

書く力を高めるためのリスニング

(4) 第1回評価結果に基づく課題

第1に、全体的に見て、「言語や文化についての知識・理解」が、一番低く、言語や文化について時間を確保することが課題である。第2に、「表現の能力」が比較的に低い。英問英答がこの活動の中心であるので、生徒の発話を促す事前指導の徹底が課題である。

(5) 改善策と授業実践

第1の課題、「言語や文化についての知識・理解」を深めるため、本校で実施した姉妹校の高校生との交流活動について考えさせた。聞いた英文の質問の最後に、次の質問を加えた。” Did you find any difference between Australian students and Japanese ones?” 初めは英語で答えるよう指示し、発話に詰まったら、日本語でも答えさせ、文化について触れた。

また、第2の課題、「表現の能力」を高めるため、英問英答活動の際、一人で答えるのを躊躇する生徒のために、一斉に答えさせた。つまり、全員で発話することで生徒の不安を取り除き、発話意欲を高めた。また、初めから完全な文の形の回答を求めず、回答が不十分であったときには、英語で聞き返しを繰り返した。例えば、No だけの答えに、No, what?と聞き返し、コミュニケーションとしての発話を促した。後半に行ったディクテーション(書き取り)では、言い換え練習も含めた。例えば、教師が Welcome to the party. —Setagaya と言えば、生徒は Welcome to Setagaya. という文章を記入する。この活動を通して、聞き取ろうとする意欲を伸長し、語彙の運用力を高めた。

(6) 実践結果

評価の観点	項目	1回目	2回目
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	1)	3.1	3.0
	2)	3.2	3.1
	3)	2.9	2.7
表現の能力	4)	2.7	2.6
	5)	2.7	2.8
	6)	2.7	2.6
理解の能力	7)	3.2	2.9
	8)	2.9	2.8
言語や文化について の知識・理解	9)	2.5	2.8

第1の課題である、「言語や文化についての知識・理解」の項目については向上した。短期留学生受入れという生徒の体験に基づいた活動を取り入れたことに効果があった。

第2の課題であった「表現の能力」は、ほぼ変化が見られなかった。「関心・意欲・態度」は高いので、継続的な指導が今後の課題である。

全体的に見て、実施したリスニング活動内容が難解であったため、2回目の向上は数値としてはあまり現れていない。しかし、一つの課題について継続的にあらゆる情報を生徒に与えた結果、明らかに題材についての生徒の知識や興味・関心が増し、聞こうする意欲や答えようとする意欲が向上したことが生徒のコメントから明らかになった。

2 オーラルコミュニケーションⅡ（A高校の実践）

（1）英語学習への生徒の取組

- ・生徒の7割が大学進学希望である。
- ・「英語が得意」である生徒が多いが、一方で、学習習慣が身に付いていない生徒もいる。

（2）実施対象と使用教材・教科書

2学年 オーラルコミュニケーションⅡ 13名

使用教材： Birdland Oral CommunicationⅡ（文英堂）

（3）リスニング指導との関連

コミュニケーション能力を高めるためのリスニング。

（4）第1回評価結果に基づく課題

第1に言語や文化についての指導が足りない。したがって、言語や文化に今以上に触れることが課題である。第2に、関心・意欲・態度の中で、2)の項目や、「表現の能力」が低い。英語がスムーズに聞けない、あるいは英語で表現できないことが原因である。したがって、聞く意欲を引き出す事前指導の工夫と、英問英答が中心の発話活動を促進する事前学習の徹底が課題である。

（5）改善策と授業実践

第1の課題、「言語や文化についての知識・理解」を深めるため、日本語の「伯父・叔父」と英語の「uncle」などの違いや、各国の少子化問題に触れた。基本的にすべて英語で行う授業の中で、日本の特定の文化に関する説明は日本語を使用した。

第2の課題、聞く意欲を高め、「表現の能力」を高めるため、リスニングに関する語彙の指導や表現指導に時間をかけた。また、ピアインタラクション（生徒同士の対話）を取り入れ、聞いた英文についての質問をペアで交互に行い、生徒の発話を促した。また、全員が発話に参加できるように、一斉に答えさせた。一方、個々の意見を聞く英問には、一人一人発話をさせた。その際、なるべく完全な文の形で答えさせるため、英語での聞き返しを行い、個々の生徒の答えを引き出した。

（6）実践結果

評価の観点	項目	1回目	2回目
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	1)	2.9	3.2
	2)	2.4	3.4
	3)	2.6	2.8
表現の能力	4)	2.8	2.9
	5)	2.7	3.0
	6)	2.6	2.9
理解の能力	7)	3.1	3.1
	8)	3.3	3.0
言語や文化についての知識・理解	9)	2.6	2.9

第1の課題、「言語や文化についての知識・理解」の項目については改善された。事前活動の段階で、題材の内容についての背景知識として、文化の観点に触れたことが効果的であった。

また、第2の課題、「表現の能力」についても向上した。

「関心・意欲・態度」の項目ともあわせて、授業の組み立てを行い、1テーマについて10時間は学習するようにしたことに効果があった。継続的に学習を繰り返すことで、題材が生徒にとって親しみのあるものとなっ

た。そして、生徒が主体的に題材に興味をもち、意欲的に表現するために必要な語彙や英語表現を習得した。このことは、5)が向上したことからも分析できる。また、CDなどによる一方向的なメディアよりも、ピアインタラクション（生徒同士の対話）や、教師と生徒による相方向の英語を用いたコミュニケーションの方が、「表現の能力」と「関心・意欲・態度」を向上させることに役立った。

3 オーラルコミュニケーション I (B高校の実践)

(1) 英語学習への生徒の取組

- ・ 大学進学率は約 70%
- ・ 学習意欲にはばつきがある。家庭での学習習慣はあまり身に付いていない。

(2) 実施対象と使用教材・教科書

2年生 3クラス 約 60名

使用教材：自主教材 (ALT との共作) ラジオ番組の電話相談を想定したカウンセラーと相談者の会話

(3) リスニング指導との関連

発話を促すためのリスニング活動

(4) 第 1 回評価結果に基づく課題

4 観点別評価表の中で、「表現の能力」が他の観点よりも明らかに低かった。評価表の生徒のコメント欄に記入された内容から、生徒は意欲的に聞いているが、それを発話にまでつなげる余裕がないことが分かった。事前学習における発話の動機付けが必要であり、生徒が積極的に発話できるようにすることが課題となった。

(5) 改善策と授業実践

会話の内容把握のための準備活動に工夫を凝らし授業改善を行った。まず重要な語彙の定着を試みた。特に、表現活動で頻繁に用いられるものを、発話の手がかりとなるように例示した。また、生徒が理解した内容を基にして、さらに自分の考えを表現できるようにした。事前指導としてリスニングを行う教材の背景説明を英語で行い、次に英問英答を用いて生徒に教材の内容理解を深めさせた。これにより生徒に十分内容を予想させた上で、リスニング活動を開始することができた。

教材は、日本からカナダへ留学した高校生の寮生活に関するものである。「ルームメイトとの生活の中で、日々のライフサイクルが合わず、その悩みをカウンセラーに電話相談する。」という設定である。英問英答では、「留学して寮生活を送るとなればどんな問題が起こりうるだろうか？」という生徒への発問から始めた。グループごとに事例と対処法を考えさせ発表させた。このような事前指導を通して、的確な内容把握からスムーズな表現活動への移行を試みた。リスニング活動後の生徒の発話の中に、事前活動で用いた表現を応用しようとする努力が見られた。さらに工夫を加えることで生徒のより豊かな表現活動を引き出せると考える。

(6) 実践結果

評価の観点	項目	1回目	2回目
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	1)	3.8	3.8
	2)	3.0	3.3
	3)	2.7	3.5
表現の能力	4)	2.1	3.1
	5)	2.8	3.2
	6)	2.2	2.6
理解の能力	7)	3.3	3.5
	8)	3.0	3.4
言語や文化についての知識・理解	9)	3.6	3.7

1 回目に比べて、2 回目は、「表現の能力」が数値的に上昇した。内容把握をできるだけ速やかに行えるよう工夫し、余裕を持って表現活動に取り組めるようにしたこと等が良かった。2 回目で全体に評価が上がっているのは、事前指導を十分に行うという改善策が効果的であったことを立証している。

4 英語 I (C高校の実践)

(1) 英語学習への生徒の取組

- ・ 9割以上の生徒が大学進学を希望し、現役大学進学率は65%である。
- ・ 授業中の態度はまじめで意欲的だが、予習、復習を自主的にできる生徒は少ない。

(2) 実施対象と使用教材・教科書

1年 英語 I 2クラス 79名

使用教材：UNICORN I (文英堂)

(3) リスニング指導との関連

4技能をバランスよく高めるためのリスニング

(4) 第1回評価結果に基づく課題

英語 I の目標は4技能をバランスよく身に付けることであるが、従来の授業では文法解説と英文和訳が大半を占めていて、聞いたり話したりする活動が不十分であった。そこで、従来の進度を保ちつつ、できる限りリスニング活動を取り入れることを目指した。毎時間以下の3つの活動を行った。①前回の授業の復習として、教科書を閉じて英問英答をする。②復習として教科書を見ずにテープの後について繰り返させる。③新単元の導入として、教科書を見ずにテープを聞いて日本語で質問応答をする。質問応答を日本語でするのは、ハードルを低くして、生徒の答えようとする意欲を高めるためである。

上記の形態での授業で授業評価を行った結果、評価観点の「表現の能力」の全項目と3)の積極的に英語で答えようとするか」という項目で評価が低かった。これらの点を改善するためには、積極的に英語で答えようとする生徒の意欲を高めることが課題である。

(5) 改善策と授業実践

英語で答えようとする意欲を高めるため次のような改善を行った。まず、英問英答をする際、指名されてから答えを考える生徒がいるので、口頭での英問英答を筆記で答えるようにして全員に取り組まなければならないという意識をもたせた。また、事前活動として全員で音読をさせていたのだが、既習の英語表現を活用できるようにするために、単語・熟語の確認・練習を追加した。さらに、家庭での復習として音読を3回以上することを課し、表現の習得と内容理解の強化を促した。また、上記の②の活動で文が長くなると、リピートできなくなるので、フレーズごとに、より短く区切ってテープの後にリピートさせる活動を教師と一緒にやった。

(6) 実践結果

評価の観点	項目	1回目	2回目
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	1)	3.1	3.2
	2)	3.2	3.1
	3)	2.7	2.8
表現の能力	4)	2.5	2.5
	5)	2.7	2.8
	6)	2.7	2.8
理解の能力	7)	3.1	3.2
	8)	2.6	2.6
言語や文化についての知識・理解	9)	2.6	2.5

改善前と改善後を比べると、多少ではあるが、3)~6)の英語で答えようとする意欲の伸長と表現の能力の向上が見られた。上記の改善点である事前活動の補強を行い、筆記形式を用いて生徒の解答が形として残るようにしたのが良かった。

また、導入として日本語での質問応答は生徒に関心をもたせるのに役立った。

5 英語 I (D高校の実践)

(1) 英語学習への生徒の取組

- ・ほぼすべての生徒が大学進学を希望し、昨年の現役大学進学率は63%であった。
- ・熱心に学習する生徒が多く、英語の授業では7割程度の生徒が予習をして授業に臨んでいる。

(2) 実施対象と使用教材・教科書

1年生 英語 I 2クラス 80名

使用教材：PROMINENCE ENGLISH I (東京書籍)

(3) リスニング指導との関連

4技能をバランスよく高めるためのリスニング

(4) 第1回評価結果に基づく課題

「理解の能力」の項目や「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」などの項目に比べ、「表現の能力」に含まれる項目4)の「既習の単語や内容の活用」や項目5)の「先生が使う英語表現の活用」など、表現させる項目の評価が低いことが明らかになった。また、生徒のコメント欄から、学習した単語を自分自身で応用することを望んでいることが分かった。4技能をバランスよく学習させるためにも、まず英作文を作成させ、そこから音声を使った活動に発展させることとした。

(5) 改善策と授業実践

生徒の求めに応じるためには自由英作文が効果的だと思われた。教師が学習する単語を例文とともに生徒に与え、それを応用した英作文を作成させる。ここに音声を使った活動の一環としてディクテーション(書き取り)が加われば、今回の研究テーマと生徒の希望の両方になう指導案が作成できると考えた。そこで次のような手順で授業改善を行った。

- ① 白紙を配布し、学習する単語の例文を教師が数回読みあげ、生徒に書き取らせる。
- ② 生徒は辞書を参考に、その単語を使った別の英文を作成する。
- ③ 二人ずつのペアになり、作成した作文を一人が読みあげ、もう一人がそれを書き取る。
- ④ ③の作業を交代して行う。
- ⑤ 教師の読み上げた文が正しく書き取れたかどうか、また互いの英作文が正しいかどうかを互いに検討する。その場で検証しきれなかった英文は教師が質問を受けたり、生徒の宿題にした。

(6) 実践結果

評価の観点	項目	1回目	2回目
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	1)	2.8	2.9
	2)	3.0	3.0
	3)	3.2	3.3
表現の能力	4)	2.2	3.0
	5)	2.3	2.8
	6)	2.5	2.6
理解の能力	7)	2.8	3.3
	8)	3.0	3.3
言語や文化についての知識・理解	9)	2.8	2.9

2回のアンケート結果を比較すると、項目4)、5)の両方に向上が見られるとともに、理解度を示す項目7)にも向上が見られた。また、生徒が互いに添削した用紙を回収することにより、ディクテーション(書き取り)中に生徒が聞き取りにくかった単語が確認できた。

6 英語Ⅱ（E高校の実践）

（1）英語学習への生徒の取組

- ・大学進学率45%。
- ・英語に対して苦手意識をもつ生徒が多く、授業での学習意欲が低い生徒がいる。

（2）実施対象と使用教材・教科書

2年 英語Ⅱ 1クラス 34名

使用教材： MAINSTREAM II （増進堂）

（3）リスニング指導との関連

コミュニケーションへの関心・意欲・態度を高めるためのリスニング

（4）第1回評価結果に基づく課題

英語を聞くことに関して、評価表の4観点全般にわたって評価が低いことがわかった。とりわけ英語を苦手とする生徒が多いという実態から英語に対する関心や意欲を高め、コミュニケーションへの興味・関心・意欲を高めることが課題である。

（5）改善策と授業実践

英語を聞くという活動をさらに行うために、教科書の導入部分や各 Lesson の最後の Activity を利用し、コミュニケーション活動をより多く取り入れることで、生徒に関心・意欲・態度を高めるよう授業改善を行った。50分の授業で、リスニングの時間は10分を目安とした。今回実践した授業改善の視点は次のとおりである。

- ①各 Lesson の導入部分に絵や写真を利用して、英文を聞かせ本文の内容について予備知識を与え、新しい語彙を導入した。
- ②各パートでは既習部分でクイズやディクテーション（書き取り）を取り入れ、語彙の確認や本文内容の理解を確認した。
- ③各パートで英問する機会を増やした。

授業の導入部分では学習内容の興味や関心を引くよう英語で2～3の質問を行った。また、教科書にある写真等を利用し、新しい語彙を導入し発音させた。また、これから学ぶ内容を推測させた。クイズとディクテーション（書き取り）では、CDを利用した。英文を聞かせる回数は、生徒の集中力を考え2回と決めた。前回の学習内容の定着度を測るため空欄補充形式で、数字や新出単語、弱形の音の聞き取り、内容理解を中心に行った。問題用紙には簡単なアンケート（英文を読む速さ、集中力、内容把握の理解度）を加え、生徒に課題の理解度等を明確にできるよう配慮した。

（6）実践結果

評価の観点	項目	1回目	2回目
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	1)	2.4	3.6
	2)	2.4	3.0
	3)	2.2	2.4
表現の能力	4)	2.2	2.2
	5)	2.3	2.3
	6)	2.1	2.1
理解の能力	7)	2.3	2.6
	8)	2.4	2.8
言語や文化についての知識・理解	9)	2.1	2.3

1回目と2回目を比べると生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度の項目が向上した。視覚教材を取り入れたことで生徒の関心が高まったものと考えられる。また、授業の目標を明確にすることで、生徒の学習態度が積極的になった。

7 リーディング（F高校の実践）

(1) 英語学習への生徒の取組

- ・約9割の生徒が大学進学を希望している。
- ・英語授業においてはおおむねまじめに取り組んでいるが、予習等をきちんとやらない生徒も少なからずいるのが現状である。

(2) 実施対象と使用教材・教科書

3年生 リーディング 3クラス（習熟度別） 90名
 使用教材：「CROWN English Reading」（三省堂）

(3) リスニング指導との関連

読む力を高めるためのリスニング

(4) 第1回評価結果に基づく課題

項目3)の「質問に、積極的に英語で答える」と項目4)の「英問に応じて適切に答える」、項目9)の「文化を意識したか」が低かった。ペアワークによる英問英答を通して、段落ごとの内容理解とコミュニケーション活動を高めるといった目的を達成するためには、生徒が答えられないことについての問題点を明らかにすることと、その克服が課題である。生徒のコメントの中に、「正しい文法がよく分からないので答えることができない」「答え方が分からないことが多かった」「文法にこだわってしまう」という内容のものがいくつかあった。それらから、生徒は内容よりも表現や文の組み立て方に注意を取られすぎて、コミュニケーションがスムーズに行えないのではないかと考えた。

(5) 改善策と授業実践

3)と4)についての対策として、答える時にあまり文法的なことにとらわれず、多少文法的に正確でなくても、伝えたい内容の要点を相手に思い切って言うことが重要であることを強調した。また、文にするのが難しい場合はキーワードだけでもよいから発話するように促した。英問英答は、当初は口頭のみで行っていたが、英問を事前にプリントに印刷しあらかじめ考える余裕を与えることとした。質問は、あまり細かい部分については踏み込まず、段落ごとに要旨のみを聞くようにした。また、答える側の生徒が焦点を絞りやすくなるように、本文を聞く前に概要に軽く触れたり、重要な英語表現や語句などをヒントとして与えることなどを試みた。

(6) 実践結果

評価の観点	項目	1回目	2回目
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	1)	2.8	2.7
	2)	2.8	2.7
	3)	2.3	2.6
表現の能力	4)	2.1	2.5
	5)	2.6	2.7
	6)	2.7	2.4
理解の能力	7)	2.8	2.8
	8)	2.8	2.2
言語や文化についての知識・理解	9)	2.1	2.2

生徒にリスニングはコミュニケーションのための活動であることを強調し、英問英答等の事前指導を繰り返した。その結果、3)と4)の評価が若干であるが向上した(2回目調査)。本文の内容を理解するだけでなく、質問に応じて、その内容を相手に伝える事がコミュニケーションの基本であることを強調し、発話がスムーズになされるための条件整備を行った。このことが、生徒の意欲や表現の能力の向上につながった。テキストそのものの内容理解の精度や深度については今後の課題となった。

Lesson Plan

*科目：Reading *学年：3年 *形態：習熟度別(中レベル)

*人数：31人 *教材：検定教科書 三省堂 「CROWN English Reading」

*授業の目標：1 英文の内容理解を主眼とするが、スラッシュリーディングにより意味をとらえるようにする。(逐語訳をしない)

2 パラグラフごとにペアワークによる英問英答を行い、内容理解とコミュニケーション活動の活性化を図る。

展開	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
warm up	練習。	速読用プリントを読む。(3分)	読ませる前に文章の話題について軽く触れ、生徒の関心を高める。	時間内に、文の概要を捉えられたか。
導入	前のパラグラフの内容についての質問と本時の紹介。	本パラグラフの内容を予測する。	内容について生徒が予測を立てられるようなヒントを与える。(簡単な質問をする。)	言語や文化について意識したか。(言語や文化についての知識・理解)
展開 ①	パラグラフのリスニング。	英語音声を聴いて、概要を捉える。	自分の立てた予測がどの程度合っているかを確認して聞くように指示する。	英文の内容を十分に聞き取れたか。(理解の能力)
②	内容理解と文法の解説(スラッシュリーディング)。	プリントを見ながら予習内容を確認。	逐語訳を極力避け、パラグラフの主旨を踏まえて文法と意味内容の説明をする。	既習の単語やイディオムは十分に理解できたか。(理解の能力)
③	パラグラフについての英問英答。	ペアワークで、英問英答を行う。 答えの確認(教師—生徒)	ヒントとなる英語表現や語句を提示し、活発な発話を促すようにする。	聞いた内容についての質問に積極的に英語で答えようと努力したか。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度、表現の能力)
④	音読(コーラスリーディングもしくはペアリーディング)。	教師の後に続いて読む。 (ペアの場合は、センテンスごとに交代して読む。)	センスグループごとにやや遅めのスピードで明瞭に読み、生徒が後に続きやすくする。	聞く・話す活動を積極的に行おうとしたか。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
①～④ を繰り返す				
まとめ	内容・文法・語法の確認。	ノート、プリントを確認。	新出の語句・文法事項を中心に行う。	その授業の要点が整理できたか。(理解の能力)

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

各校独自の評価表に基づくリスニングにおける課題の模索を経て、4観点に分けた共通の評価表を策定し、授業改善の具体的指針とし、外国語全科目で実施した。評価結果から、各学校とも値の低かった項目には共通点があった。その評価結果を基に重点的に補足や工夫を加えて授業改善を行った。評価結果を授業改善につなげることができたことは大きな成果である。

2 評価表の結果を基にした考察と改善案

評価表にある4観点のうち、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」における表現の能力の項目、「表現の能力」全般、及び「言語や文化についての知識・理解」の項目がおおむね低い数値結果となった。主として受信から発信へのスムーズな移行が不十分であることが分かる。評価表の生徒コメント欄、生徒の意見や感想から、「内容理解に終始してしまい表現するまでには至らない。表現する自信が無い(恥ずかしい)」等が明らかになった。そこで事前学習を中心とした様々な方策の充実によって十分な改善を図った。

詳細は各校での実践結果の(4)改善策と授業実践にあるとおりである。各実施校での評価表データを集計した結果、上記の項目に関しておおむね良好な改善結果が数値に反映された(5項目×6校7回の授業分。合計35項目中24項目で数値上昇。改善率69%)。評価表を基にポイントを絞って授業を見直すことで授業改善を図った。

事前学習の充実には様々な工夫が可能であるが、「表現の能力」に関しては、リスニング活動によって獲得した情報が明瞭であるほど、表現活動への移行がスムーズに行われることが明らかになった。「言語や文化についての知識・理解」に関しては、背景説明に多くの時間を確保することによって生徒の興味・関心を引き出すことができた。「先生の話が面白かったから聞いてみようと思った。」という生徒の自由意見欄に寄せられた多くのコメントは、リスニングへの意欲を高める意味で大変重要であることを示している。科目の特性によっては従来取り入れられる割合が比較的少なかったリスニング活動をそれぞれの科目にバランスよく配置して成果を上げることができた。このことは長期的には総合的な英語力の伸長に少なからず効果があると考えられる。

3 今後の課題

本研究において、「個に応じたリスニング指導」を考えた時、いかに生徒の意欲を高めていくかという点に重点を置いたが、今後は既に高い意欲を保持している生徒に対してそのリスニング能力を確実に高める方策も考えていく必要がある。生徒のリスニングの力をいかに発話能力の伸長へつなげていくかは常に課題の中心である。教師が自らの授業を絶えず検証し続けることがいかに重要であるかということや、生徒の声に誠実にこたえていこうとする教師の授業に対する姿勢が、「個に応じた指導」につながることを実感した。このことは、まさにあらゆる授業改善の根本を成す。本研究の取組を応用して、他の教科内で、別々の科目において、共有の課題を集め、同じ観点から評価表を作り、評価表を基に授業改善を行うことができる。教員同士の切磋琢磨は、よい授業を作り出すための大きな力となり、このような取組を広げていくことが真の授業改善につながる。